



## フィリピン青年からみた

### ブラクール ジュネフェ・パヨット

ミンダナオで育ち、島内をよく旅したので、この島をよく知っていると思っていた。ブラクールを訪ねるまでは、ブラクールのチボリやマノボ民族と会って、まったく新しい世界が開かれた。歴史の教科書でしか知らなかったミンダナオの一面をこの目で見た。

でこぼこの埃っぽい道を車で行き、途中泥だらけの部分があり先へ進めず、予定の場所よりかなり手前で車を降りた。草原や森林、トウモロコシ畑の間を通り、山の中に学校が見えた時は驚いた。更に歩き、家々が見え、着古した大きすぎるTシャツを着た子どもたちが遊んでいるのを見た時は、アドベンチャー映画によくある、秘密の集落を発見したような気分だった。

第一印象は、皆笑みを浮かべて歓待してくれたことだった。それと同時に、多彩な民族衣装、美しい首飾りや髪飾りをつけていないことに失望した。教科書や写真集で得たイメージを期待していたのだ。でも首長の奥さんと祈禱師がとても素敵なネックレスとイヤリングをしているのを見、それらのアクセサリーに豊かな文化と伝統が込められているのを感じた。

一泊だけだが、多くの事を学んだ。笑顔は幸せな満足した生活を反映していると思ったが、夜ココナッツ酒を飲みながらの会話で、多くの問題を抱えている事がわかった。

#### 経済問題

一番の問題は生計を立てることの難しさだ。ほとんどの人がトウモロコシ栽培で収入を得ており、大体3千ペソだそう。種蒔きから収穫まで4ヶ月かかるので、月収750ペソにしかならない。家の中には、調理器具と食器以外にはほとんど何もなかった。僕はマニラの都市貧困問題と関わっていて、マニラの貧困地域を訪ねたりするが、その人たちに比べても、パヤタスのゴミ捨て場を漁る人たちよりも、物質的にもっと貧しいのに、驚いた。

#### 根本的問題

住民たちははっきりとは言及しなかったが、もっと深い根本的な問題があると推測できた。偏見。これが発展の妨げなのだ。多くの人たち、特に都市生活者にこの責任がある。僕にも責任がある。肌が黒く、背が低く、山に住んでいる人は学校でからかわれた。僕もからかった一人だ。でもそれはだいぶ前で、今は偏見の危険

性とそれがどれだけ人を苦しめ、尊厳を傷つけているかを理解している。

しかし、偏見はいまだにある。先住民族の無知や劣等性を笑いの種にした多くのジョークがあり、映画やテレビで偏見を助長している。更に問題なのは、先住民族に対して公的支援を行わなければならない公務員が偏見を抱いていることだ。その結果、先住民族が開発援助の対象にはならず、非先住民族が恩恵を受けているのだ。

悲しいことは、先住民族が地理的に離れているだけでなく、社会的、経済的、政治的に孤立していることだ。これを根絶するために、若い人たちに偏見の悪を伝えようと、自分に誓った。

#### 誇り

劣っていると思われるが為に搾取されていることに気がついてはいるが、先住民族としての認識や文化への誇りを失っていない。日本人や他の人たちが学ぶべきことは何かと問うた時、誇りをもって自らの文化、伝統保存へ力を注いでほしいとのことだった。

教育に重きをおき、地域で学校を運営していることに誇りを持っている。学校は、若者に教育を与えて、偏見と戦って地域を助けるためだけでなく、共通の目的をもって、地域共同体として固く結びつける役目もしている。

前に述べた、マニラ之最貧困地域と比べて物質的な面で貧しいと書いたのはこの事だ。都市住民には地域共同体の意識は無い。

#### 希望

笑顔は生活に満足しているからだけでなく、多くの問題を抱えているにもかかわらず、希望をもっているからだとわかった。

希望を持つことは、向上への第一歩だ。これがブラクールの人たちから学んだとても価値あることだ。

(文責 相田陽子)

#### <ジュネフェ・パヨット>



アテネオ・デ・マニラ大学大学院生・日本語講師。ミンダナオ北部カガヤン・デ・オロ市出身。立教大学大学院に1年間留学。都市貧困者援助の為に弁護士志望。当会の活動に興味を持ち、パートナーNGO 活動地域訪問を希望し、ブラクールに一泊しました。